

# 全日本語りネットワーク

2007. 1. 15 発行

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 5-19  
桐生市市民活動推進センター 内  
(Fax) 0277-47-4067 (振替) 00130 - 2 - 114808  
(E-mail) Japankatarinet@aol.com  
(HP) <http://members.aol.com/Japankatarinet/>

## ニュース

### 全日本語りネットワークの存在 ～意義と展望～

運営委員 (きりゆう) 岡田一男

私が、ネットワークに関わったのは、「第 5 回語りの祭り IN 桐生」からであった。

当時桐生では、民話の採話を子ども達に語っていた一人を除けば、語りに関わる人は皆無に等しかった。

平成 2 年私が図書館長となって、最初に持った感想は世界有数の経済大国云われながらで、日本の公共図書館はなぜ斯くも貧しいのか?・・・であった。ある日、友人が勤務する中学校の学校図書館を見せてもらった。図書室には鍵が掛かっていた。たばこの吸い殻あり、いたずらがある状況のためとのことであった。

自主自学の本来あるべき素晴らしい学校図書館の経験のない子ども達は、社会人となっても公共図書館を求めない。このことが日本の図書館の貧しさに繋がることに気づき愕然とした。

それからである、専任の司書教諭もいない学校図書館に人を置けないものかと、私の戦いが始まった。取り組みから 2 年目、曲がりなりにも学校図書館に「図書のおばちゃん (パート)」を配置することができたのである。小さな歩みであるが、読書環境が少し改善され「読み聞かせ」等も始まりつつあった。そんな中「第 5 回全日本語りの祭り」開催の話が舞い込んできたのである。

祭り開催は、その後の桐生における語りの輪の広がり繋がり「おはなしの学校」の誕生へと歩を進めることができた。「語りつなごうに・・・」の認識程度から始まった桐生での祭り開催の意義と全日本語りネットワークの存在は大なるものであった。以後、私はネットワークの委員として末



席を汚して 6 年、語りの祭りも第 6 回鳥取・第 7 回修善寺そして昨年 10 月第 8 回会津若松での開催に関わり、語りの普及に微力を尽くしている。

次回は第 9 回盛岡 (予定) その後の 2010 年には 10 回を迎える。1992 年第 1 回埼玉県秩父でのスタートから 20 年、時の流れの中に位置する記念の年となる。

人はそれぞれ顔形が違う様に、ものの見方考え方も異なる。批判・反対は世の常であるが、語りの方法論・語り論の違いなど多々あると思うが、その違いを超えて、語りに関わる多くの方々が名実共に全日本語りネットワークに参加下さることを願っている。そして佐藤委員長の目指す語り文化の種蒔きの輪が、水の波紋の様に全国に伝波していったらと思うと胸の鼓動が高鳴るのである。

今、桐生では 2000 年に蒔いていただいた種が実を結び、その新しい種を蒔く人、田を耕す人、苗を育てる人など、いろいろな関わりを持ちながら第 2 波の活動の輪が広がりつつある。

現在の全日本語りネットワークの組織はまだまだ脆弱である。私が夢見る組織体制は、NPO 法人化・理事組織の確立 (各県単位)・委員の充実・事務局体制の整備・語りに関わる情報、資料の提供・専門部の設置・世界各国の関連組織との窓口となるなど多岐に渡る対応が出来ることにある。